

令和7年度 小樽市立潮見台小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

①前改善プランの定着目標の達成状況

・前改善プランでは、児童アンケートで国語と算数が「好き」「分かる」と回答80%、学期末テストの正答率80%を定着目標として取り組んだ結果は以下の通りである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語						
「好き」	91%	71%	70%	84%	73%	66%
「分かる」	100%	94%	85%	88%	91%	97%
テスト	94%	83%	79%	92%	76%	87%
算数						
「好き」	91%	76%	88%	89%	65%	57%
「分かる」	89%	85%	88%	91%	68%	75%
テスト	93%	83%	75%	85%	75%	85%

・上記の結果から、学習内容は理解しているものの、好きではないという傾向が継続して見られ、学ぶ楽しさや充実感を味わい、主体的に学習に取り組む授業改善を行う必要がある。

②全国学力・学習状況調査結果（教科）

・国語では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して工夫して書き表すことに課題が見られた。日々の授業の中で、自分の考えを伝えるためにメモを活用したり、条件に合わせて考えをまとめること、人物像や登場人物の心情を捉えて、心に残った場面を書き表したりするなど、思考・判断・表現の力を伸ばす必要がある。

・算数では、示された情報から、必要な数値を読み取ったり、式にあわらしたりすることや、根拠を示して図形やグラフの特徴などを説明したりすることが全国平均を下回った。日々の授業の中で、必要な情報を読み取って説明したり、習ったことを生かしてや図形グラフ、式などの特徴や性質を伝え合ったりする場面を多く設定する。

③標準学力調査

・どの学年においても、記述式に関する問題の正答率が低いことと、「思考・判断・表現」の観点の正答率が低いという結果が見られた。条件に沿って、自分の考えをまとめ、伝え合って表現を高めるという授業改善は必要である。

④その他の検査

・上記のように学期末テストの結果は、国語と算数の両方、定着目標を上回っており、直近の学習内容の定着は図られている。

⑤全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）

・平時の家庭学習の時間の項目では、全国平均を大きく下回り、1日2時間以上、動画視聴やSNSをする児童の割合は全国平均を大きく上回り、生活習慣の改善を促す取組が必要である。

⑥家庭生活及び学習の状況等

・前改善プランでは、家庭学習目標時間と自分で学習内容を決めて取り組む、という目標を設定し、取り組んだ結果は以下の通りである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
家庭学習目標時間	94%	77%	73%	86%	48%	33%
自分で学習する			88%	88%	80%	81%

・上記の結果から、決められた時間で学習している割合が高学年では低くなっており、50～70分学習に取り組むということに課題が見られる。家庭での時間の使い方や家庭学習の内容などについて、児童と教員、保護者と共通理解を図り、生活習慣の改善を促す必要がある。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・国語を「好き」と回答する児童95% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童95% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)95%
2年	・国語を「好き」と回答する児童95% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童95% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)95%
3年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童95% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)85%
4年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童86% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%
5年	・国語を「好き」と回答する児童85% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)93%
6年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童92% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%

<算数科>

学年	定着目標
1年	・算数を「好き」と回答する児童95% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)95%
2年	・算数を「好き」と回答する児童95% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)95%
3年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童86% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)85%
4年	・算数を「好き」と回答する児童90% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童90% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)90%
5年	・算数を「好き」と回答する児童90% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童92% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)86%
6年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習時間 学年×10+10分 90% ・1日にテレビや動画などをする時間(2時間未満) 70%
2年	・家庭学習時間 学年×10+10分 85% ・1日にテレビや動画などをする時間(2時間未満) 70%
3年	・家庭学習時間 学年×10+10分 80% ・1日にテレビや動画などをする時間(2時間未満) 70%
4年	・家庭学習時間 学年×10+10分 80% ・1日にテレビや動画などをする時間(2時間未満) 70%
5年	・家庭学習時間 学年×10+10分 75% ・1日にテレビや動画などをする時間(2時間未満) 70%
6年	・家庭学習時間 学年×10+10分 75% ・1日にテレビや動画などをする時間(2時間未満) 70%

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学習規律の定着を図り、互いに考えを認め合い、自分のよさを発揮できる学級経営の充実を図る。
- ②基礎基本の確実な定着を図り、児童に「分かる」「できる」「楽しい」という充実感・達成感を味わわせる授業改善を行う。
- ③授業や朝学習の中で、自分の考えを説明したり、条件に合わせて書き表したりする場面を設定し、表現力を高める取組を行う。

(2) 授業改善を図る研修の取組

- ①「子どもが考える、伝え合う授業」づくりを基本とした校内研究を全学級で取り組み、主体的に学習に取り組む力を育てる。
- ②授子どもたち同士で協働的に学び、自分の考えを広げ深める授業を構築する。
- ③授業の中で、学び方や解決方法、表現方法を選択したり、自己決定したりする場を多くの場面で取り入れ、個別最適な学びの充実を目指す。
- ④子ども自ら「やってみよう!」「だったら、次は!?!」と主体的に学ぶことができるような単元構成や一単位時間の内容を工夫することで、学ぶ楽しさを感じられるようにする。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①年度初めに「潮小の家庭学習について」を配布したり、学級懇談の中で家庭での時間の使い方や家庭学習の内容などを説明したりして、家庭学習について共通理解を図り、一年間を通して家庭学習への啓発を行う。
- ②テレビや動画視聴、SNS やゲームなどに触れる時間を減らすことができるような「マイナスプラスチャレンジ」に定期的に取り組み、生活習慣の改善を促す。
- ③家庭学習に自主的に取り組む力を高められるように、自主学習ノートの取組を推奨したり、工夫したノートの紹介や交流ができるコーナーを設置したりして、児童の励みとなる取組を行う。

(4) その他

- ①博物館や美術館と連携したり、専門的な知識をもった方をゲストティーチャーになっていただいたりして、生き生きとした学習が展開されるよう計画を立て、実践する。
- ②地域の特色・素材・場所を生かした授業を構築する。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 7年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">○R 7 全国学力・学習状況調査の実施</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">○全国学力・学習状況調査 自己採点</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">○標準学力調査実施（第3・4・5学年）</div>
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営案の作成、児童交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">○標準学力調査結果分析</div>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「マイナスプラスチャレンジ」の実施

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの実施 ・保護者アンケートの実施 ・教職員アンケートの実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・定着確認学期末テストの実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営反省と2学期の重点課題の交流、児童の交流
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○R 7 全国学力・学習状況調査結果分析</div>
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○保護者への調査結果の説明</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○学力向上改善プランの評価・改善</div> <p>※全学級による研究授業を通年実施</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・「マイナスプラスチャレンジ」実施 ・児童アンケートの実施 ・保護者アンケートの実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・定着確認学期末テストの実施 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施
R 8年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営反省と3学期の重点課題の交流、児童の交流
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施
3月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○新学力向上改善プランの作成</div>

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①児童アンケート、保護者アンケート等を通して定期的に学習規律の定着度合いや学習環境の整備状況等を把握し改善を図る。
- ②全国学力・学習状況調査、標準学力検査・チャレンジテスト、定着確認テスト等を分析し授業改善に繋げる。
- ③学級経営交流、研究授業事後検討を通して取組状況を共有し、好事例を普及するなどして改善を図る。

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ①全学級の授業公開と外部からの助言・評価により検証改善を図る。
- ②③全国学力・学習状況調査、児童アンケート、交流授業等により状況を把握・共有し、授業づくりに生かす。
- ④交流授業での児童の姿、教職員アンケート等により分析し、単元構成や1単位時間の授業の工夫に繋げる。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①児童アンケート、保護者アンケートにより取組状況を把握し周知方法を適宜工夫しながら啓発を続ける。
- ②「マイナスプラスチャレンジ」の取組の様子を定期的に把握し児童の取組から好事例を普及する。
- ③児童アンケート、保護者アンケートにより取組状況を把握し児童の取組から好事例を普及する。

(4) その他

- ①②教職員アンケート、学校運営協議会での意見交換等で検証改善を図る。